

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-130337

(43)公開日 平成5年(1993)5月25日

|                          |         |         |     |        |
|--------------------------|---------|---------|-----|--------|
| (51)Int.Cl. <sup>5</sup> | 識別記号    | 序内整理番号  | F I | 技術表示箇所 |
| H 0 4 N 1/04             | 1 0 6 A | 7251-5C |     |        |
| G 0 3 B 27/62            |         | 8106-2K |     |        |
| G 0 3 G 15/04            | 1 1 9   | 9122-2H |     |        |

審査請求 未請求 請求項の数5(全5頁)

(21)出願番号 特願平3-291446

(22)出願日 平成3年(1991)11月7日

(71)出願人 000001007  
キヤノン株式会社  
東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72)発明者 竹村 幸男  
東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤノン株式会社内

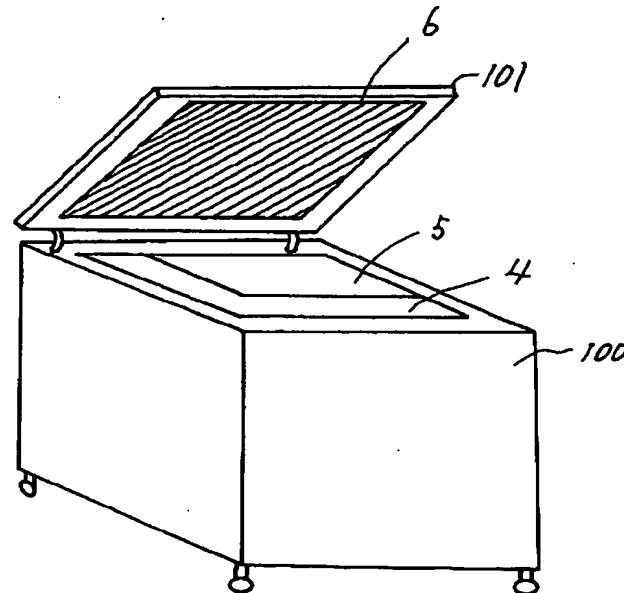
(74)代理人 弁理士 丸島 儀一

(54)【発明の名称】 原稿読取装置

(57)【要約】

【目的】 両面原稿において原稿の濃度、サイズ、位置等の情報を正確に読み取る。

【構成】 原稿圧板101の原稿押圧側に黒色板6を設け、原稿裏面からの光を防止する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 原稿を載置する原稿載置台と、この原稿載置台に原稿を押圧する押圧部材と、上記原稿載置台に載置された原稿を照明し得られる光を受光する受光センサと、を有する原稿読取装置において、

上記押圧部材は全体的に黒色であり、上記受光センサからの出力結果に基づき原稿情報を認識する認識手段を有することを特徴とする原稿読取装置。

【請求項2】 上記認識手段は原稿の濃度を認識することを特徴とする請求項1の原稿読取装置。

【請求項3】 上記認識手段は原稿のサイズを認識することを特徴とする請求項1の原稿読取装置。

【請求項4】 上記認識手段は原稿の位置を認識することを特徴とする請求項1の原稿読取装置。

【請求項5】 上記認識手段は原稿領域外を白色画像として認識することを特徴とする請求項1の原稿読取装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、原稿を照明し得られる光を電気信号に変換して原稿画像を読み取る原稿読取装置に関し、特にシート原稿の画像を読み取る原稿読取装置に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 従来の複写機等の画像読み取り装置の例を図11、図12に示す。図11における100は一般的な複写機の一例である。図11において4は透明ガラス板で、この上にシート原稿5の読み取りたい画像面が図上で下側になるように置く。101は圧板ユニットでちょうどがい102により図矢印a方向に閉じて、原稿5を白板106とガラス4とで挟み込む。図12は図11における100の装置内部の原稿画像読み取り装置近傍の概略図である。1はランプ、2、3はランプからの光束を原稿に向かって効率良く照射させる為の反射笠、4は原稿載置透明ガラス、5は原稿、106は原稿押え用白色板である。そしてランプ、反射笠により照明された原稿からの反射光21はミラー7、8、9で反射し折り返され、結像レンズ10に入射し、光電センサー(CD)11に結像する。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、この原稿からの反射光21は、(1)原稿画像表面からの反射光と、(2)原稿の紙を透過し白色圧板で反射し、再び原稿の裏面より入射し画像面より透過した光束(以下、圧板反射光と略する。)、の2種類の履歴を持った光束の合成光であり、前記従来例では原稿からの反射光束の中に上記した圧板反射光の成分が含まれている為以下の様な欠点を生じる。

【0004】 つまり、載置された原稿シートの下面及び上面の両面に画像が存在する場合、原稿反射光21の中

に、原稿の下面と上面の画像情報が重なってしまう。

【0005】 これは圧板反射光量が原稿の裏面に画像がある場合と無い場合で異なる為に生じる。即ち、原稿の下面の画像のみを読み取りたい時には、上面の画像情報はノイズとして読み取り画像の画質を著しく劣化させてしまう事になる。この現象はシート原稿の紙材の厚みが薄いほど、即ち紙材の透過率が高いほど、また原稿の裏面にあてがう後面の板の反射率が高く、また原稿に近いほど、原稿裏面の画像がコントラスト良く見える。即ち原稿表面画像を劣化させてしまう。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するため本発明は、原稿を載置する原稿載置台と、この原稿載置台に原稿を押圧する押圧部材と、上記原稿載置台に載置された原稿を照明し得られる光を受光する受光センサと、を有する原稿読取装置において、上記押圧部材は全体的に黒色であり、上記受光センサからの出力結果に基づき原稿情報を認識する認識手段を有することを特徴とするものである。

【0007】 図1及び図2は本発明の実施例を示す。

【0008】 図1は本発明を実施した複写機の一例である。本実施例では原稿圧板の原稿側の面を黒色板6とし全面的に黒色にしている。

【0009】 図2は図1の装置の内部であるところの原稿画像読み取り部である。ランプ1から放射された光束は反射笠2、3により原稿載置ガラス4を透過し原稿5に照射する。原稿に照射後原稿からの反射光22は従来例と同様に折り返しミラー(不図示)に指向する。この時、原稿透過光は黒色板で吸収されてしまう為、反射光22には圧板反射光が除外され、原稿の裏面画像情報がノイズとして存在しない画像光が受光センサ11に入射する。受光センサ11に入射した光は電気信号に変換され原稿情報である原稿濃度、サイズ、位置等が認識手段で認識される。

【0010】 その結果、画質の劣化がない良好な画像読み取りが可能となる。

【0011】 図3及び図4は本発明の第2の実施例であり、本発明を原稿自動送り装置(以下、ADFと略する)に適用した例である。複数枚の原稿111をADF

110に載置する。原稿111は給紙ベルト112により、矢印b方向に流れ、原稿載置ガラス4上の113に一時停止し画像情報を下部の照明系1、2、3とミラー7、8、9、レンズ10、光電センサーにより読み取る。図4における61は原稿押えベルトで、原稿が原稿載置ガラスより浮いて結像レンズの焦点深度から外れ解像力が劣化しない様に、原稿の裏面より原稿載置ガラスにむけて押える。本実施例ではこのベルトの表面を黒色にすることにより原稿の裏面を透過してきた光束を吸収する。即ち従来の圧板反射光をなくしている。なお、画像が読み取られた原稿は、この黒色ベルト61をさらに

回転させることで、図面右側に移動し 114 におくる。  
【0012】図5、図6は本発明の第三の実施例である。10は蛍光灯光源、100はファイバーレンズであり、原稿からの反射光22を光電素子11に結像している。62は原稿5をガラス4に密着させながら矢印方向に押し出す様に回転している原稿送りローラーである。ローラー62は図6のようにその円周外側面が全体的にわたって黒色であり、材質はゴム、スポンジ等で構成され、原稿をガラス4に押しつけている。この場合も原稿を透過した光束はこの黒色ゴムローラー62の表面で吸収され、原稿反射光に圧板反射光が含まれない。

【0013】図7～図10に本発明を電子写真複写機に応用した実施例を示す。図中の同一番号は上記実施例と同一部材を示す。以下に電子写真プロセスの一例の概略を説明する。図7において32はチャージャーで回転する感光ドラム35に均一に電荷を与える。また、結像レンズ10は原稿からの反射光をミラー31を返して電荷を持った感光ドラム35上に結像する。この時、感光ドラム表面は照射光量の多い場所では電荷が消滅し光量の少ない場所では電荷が残る。即ち原稿の白い部分が結像された場所では、電荷が消え、原稿の黒い部分が結像された場所では電荷が残る。感光ドラムの表面は、更にブランク露光LEDユニット下を通過し現像機34で電荷に応じ黒いトナーを付着させられる。即ち、電荷の残っている部分には黒いトナーが感光ドラムに付着し電荷の無い部分には、トナーは付着しない。コピー用紙36は図7、右側より給紙され、感光ドラム下を流れ、この時感光ドラム表面のトナーを受ける。さらに矢印方向に流れ、2つの定着ローラー38に挟まれトナーをコピー用紙に定着する。定着されたコピー用紙は図7上でさらに左側に流れ複写機から排出される。

【0014】一方図9は原稿圧板から受光センサであるCCDまでの光路図である。この図9において、CCD41は、図7での奥手前方向に長く配置され、原稿の奥、手前方向の長さ、位置を検知している。図9で画像読み取りエリアの奥端Lはレンズ40によりCCD41上Kに、また手前端MはCCD41上のJ点に結像するよう配置する。このとき、原稿端LLはCCD41上のPに、MMはCCD41上のNに結像する。この場合のCCD上の光量分布を図10に示す。縦軸にCCDの受光する光量の強度、横軸にCCD上のJ～K間の位置を示す。また図9における上方のガラス上の原稿はLL～MM間に配置され、黒色圧板6がL～LL間とMM～M間から見える。この時この原稿5の反射光はレンズ40によりCCD上のN～P間に照射するため、図10で示す光量分布もN～P間で高くなり、また黒色圧板の見える場所に相当するCCD上の光量は少なくなる。ここで、例えば画像読み取りエリア、L～M間の長さを、300mm、CCD長を30mmとした時、J～N間が6mmであれば原稿がガラス4上では原稿端MMが原稿読

み取りエリアMより60mm離れた位置にある事が検出出来る。またN～P間が18mmの場合は原稿の奥手前方向の長さが180mmという事が検出出来る。

【0015】図8はブランクLEDアレイ33が感光ドラム35の表面を照射するところの説明図である。ブランクLED自身の技術としてはすでに公知であるのでここでは説明しない。PP～NN間はガラス4上のLL～MM間の寸法とコピー倍率の積であるところの寸法である。

10 【0016】ここで、図9の様に配置された原稿を結像レンズ10により感光ドラム上に結像してコピーをする場合、前記した圧板の部分が感光ドラム上の電荷を消去しない為、後の現像プロセスに於てトナーが余分にドラムに付着しトナーが浪費される。このトナーの浪費を防止するため、図10でのCCD出力から検出した原稿サイズに応じて、このブランクLEDを、例えばKK～PP間とNN～JJ間で、点灯させて、感光ドラム表面の不要な電荷を消す。即ち不要なトナーの浪費を防止する。

20 【0017】この場合、黒圧板と原稿の反射光のコントラストが高いためS/Nの高い高精度な原稿サイズ検知が可能となる。

【0018】また図10での原稿反射光強度Eにより原稿の反射濃度も検出するために原稿の反射濃度に応じた、適正濃度コピーも可能となる。

【0019】なお、本発明の実施例としてブランクLEDや感光ドラムをあげてその効果等を説明したが、同機能を持つブランク照明装置や感光体、受光センサー等、他の部材でも本発明の効果を得る事が可能である。

30 【0020】以上、説明したように原稿読み取り面と反対側に原稿からの透過光束を反射しにくい、黒色圧板、黒色部材などを配置することにより、原稿の表面の画像情報を高画質に読み取る事だけでは無く、高精度な原稿サイズ検知や適正濃度コピーが可能になる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施例を説明するための図である。

【図2】図1の装置の光学系を示す図である。

【図3】本発明の第2の実施例を説明するための図である。

【図4】図3の装置のベルトを示す図である。

【図5】本発明の第3の実施例を説明するための図である。

【図6】図3の装置のローラを示す図である。

【図7】本発明を電子写真装置に適用した例を示す図である。

【図8】図7の装置の非画像露光を説明するための図である。

50 【図9】図7の装置の原稿から受光センサまでの光路図である。

【図10】図7の装置の受光センサからの出力図である。  
る。

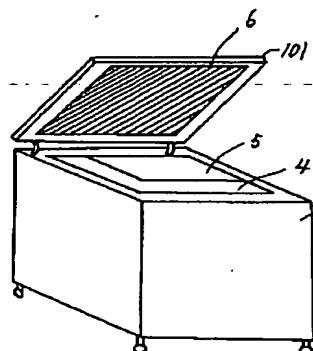
【図11】従来例を示す図である。

【図12】図11の装置の光学系を示す図である。

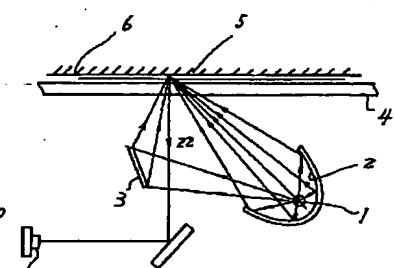
【符号の説明】

1 ランプ  
4 原稿台ガラス  
6 黒色板  
11 受光センサ  
101 原稿圧板

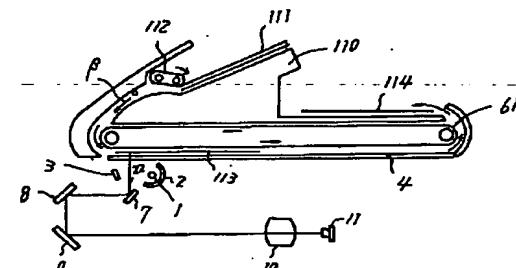
【図1】



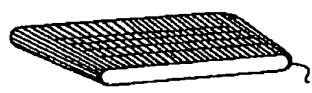
【図2】



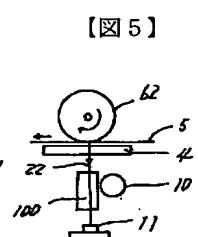
【図3】



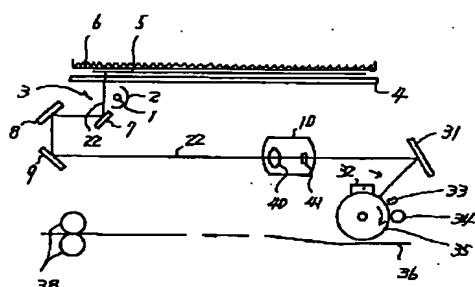
【図4】



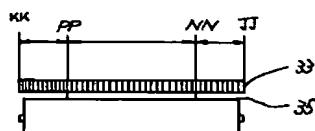
【図5】



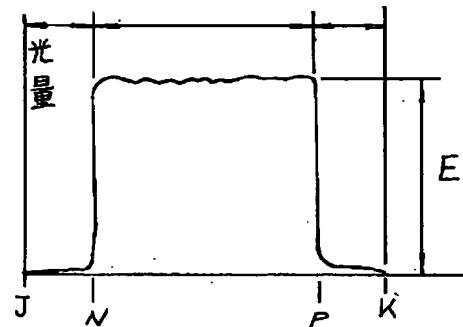
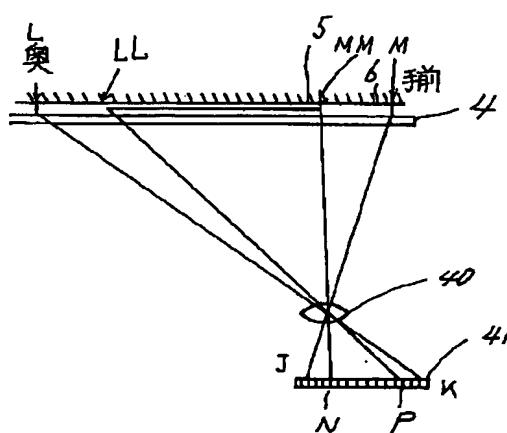
【図6】



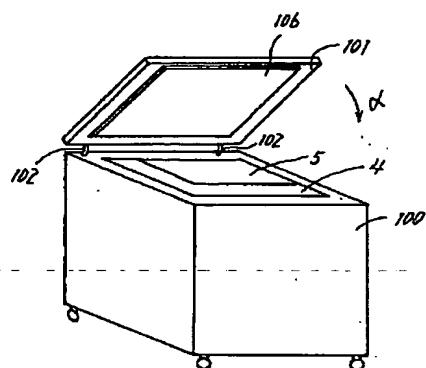
【図9】



【図10】



【図11】



【図12】

